

声 明

北陸電力の志賀原発1号機が、2月末に発生した再循環ポンプの事故により停止し、現在、原因の調査が行なわれています。志賀原発では、昨年12月と今年1月に限っても公表された事故・トラブルは5回、そのうち3回は手動停止せざるを得ないものでした。今まで、事故やトラブルのたびにいつも「原因の徹底究明と再発防止」が謳われ、再発防止対策が発表されると直ちに運転が再開されるということが繰り返されてきました。

しかし、今回のトラブルは昨年12月と同じ部分で発生しており、「前回の再発防止対策はいったい何だったのか」と、誰もが疑問を感じるような事態になっています。事故やトラブルがこれほど頻発する背景には、志賀原発の運転管理体制に構造的な問題があるのではないかと言わざるを得ません。また北陸電力の対応には、「事故に慣れてしまって、緊張感や危機感が欠けているのではないかと不安の声もあがっています。地元住民のみならず、各地から「北陸電力には原発を安全に管理・運転する能力が十分に備わっているのか。小さな事故・トラブルの繰り返しが、やがて大事故につながるのではないかと危惧する声が届いています。

口先だけの「安全最優先」や「原因究明と再発防止」は、もう十分です。「北陸電力に原発運転の資格なし！」と、あらためて言わざるを得ないような現状では、危険な原発を一層危険なものにし、やっかいな核のゴミ（放射性廃棄物）を増やすだけのプルサーマル運転など、到底認めるわけにはいきません。

私たち『ストップ！プルサーマル・北陸ネットワーク』では、ここで再度、北陸電力に対して「プルサーマル計画」実施の断念を求めます。

石川県に対しては、「プルサーマル計画」事前了解願いを了承しないよう求めるとともに、北陸電力と締結している安全協定、および原子力環境安全管理協議会のあり方を抜本的見直す等、県の原子力行政の再検討を求め、「プルサーマル計画」を阻止するための取り組みをいっそう強めていくことを、あらためて表明します。

2011年3月4日

ストップ！プルサーマル・北陸ネットワーク

共同代表 盛本 芳久（石川県議会議員）

田尻 繁（富山県議会議員）

柚木 光（石川県平和運動センター・代表）

堂下 健一（命のネットワーク・事務局）

中垣 たか子（原発震災を案じる石川県民・世話人）